



コード (分野)	19901
メニュー名	クルマと社会 つながる教室
校園名(学年)	栗東市立大宝小学校 第5学年
講師・支援者等	トヨタカローラ滋賀 株式会社
学 習 名	車と社会のつながりを学ぼう
教 科 等	社会科
実 施 日	令和4年11月25日 (金)9:35~10:20

テーマ「どのように車が社会とつながっているかを学ぼう」

《授業の流れ》

1 今日の学習テーマの紹介とウォーミングアップ

- ・トヨタカローラ滋賀の自己紹介
- ・簡単な車クイズに挑戦！（授業の復習）
 - *クルマの部品の数？ *出荷時チェックの項目数は？
- ・3つの学習キーワード「環境と福祉」「安全」「点検」について紹介
- ・今日の活動の方法について（班ごとに3つのゾーンをローテーション）

2 観察と実習（体感時間）

「環境・福祉」ゾーン

- ・燃料電池車観察：二酸化炭素排出ゼロの燃料電池車（MIRAI）を観察。充填された水素と大気中の酸素の化学反応により電気を作る仕組みを学ぶ。また、電気を作ることでMIRAIが水を排出する様子を観察する。
- ・福祉車両体験：助手席回転シートのルーミーを体験。（スタッフのリモコン操作で助手席が回転し昇降することによってクルマの乗り降りを補助）



「安全」ゾーン

- ・乗員を事故から守るための工夫や装置を知る
 - エアバッグを探してみる。
 - シートベルト巻き取り機能の作動を学ぶ。
 - 車のボディー構造を知る。
 - 前方の安全を見守る自動ブレーキを学ぶ。



「点検」ゾーン

- ・エンジンルームの観察、オイルの汚れ（新品・5000km 走行時の状態）を確認する。
- ・タイヤのパンクについて学び、タイヤの空気圧の計測を実際に体験する。

3 授業の振り返り

- ・ 3つの学習キーワードを確認する。
- ・ 今日の学びをアウトプットする。
- ・ 質疑応答



《感想・思い》

生徒

- ・ 知っているようで知らないことがいっぱいわかってよかった。
- ・ 水素車の排気ガスは二酸化炭素が出ずに水だけが出ることにびっくりした。
- ・ エアバッグがどこにあるのか、実際に車のマークを探して、たくさんついていることが分かった。
- ・ 動いている助手席のシートに乗ってみて、すごく静かに動くことが分かり、工夫されていると思った。
- ・ 家の車も二酸化炭素が出ていると思うと、環境のことを考えるきっかけになった。

学 校

- ・ 子どもはこうした体験活動に生き生きと取り組み、確かな学びを習得する。本校としても、すべての学年で、コロナ禍の中であっても、最低限可能な限り外部からの出前授業を取り入れて学びを体系化している。今日も、子どもたちの目がキラキラとしていて、その成果がよく感じ取れた。
- ・ コロナ禍において、自動車組立工場を見学できていない。そこで、単元としての学習は終了しているが、車と社会のつながりを学べた収穫は大きい。

支援者・講師

- ・ 2018年から始まった「クルマと社会 つながる教室」プログラムは年々お申込み件数が増えており、今年度は滋賀県内19校の小学校からご依頼をいただけるまでになりました。特にコロナ禍が始まってからは、子どもたちの学びと体験を充実させてあげたいという現場の先生方からの切実な想いとお声を聞いております。いろんな車に実際に乗ったり触ったり体験したりすることは、児童の皆さんにとってとても刺激である様子ですし、我々スタッフも子どもたちからエネルギーを与えられております。また、各店舗のスタッフがこういった地域活動に参加し経験することは社員教育という観点からも、とても大切なプログラムだと考えています。元気な子どもたちと触れ合うと、みんなが元気になります。

